

ここすき！特別企画 幼稚園に行ってきました！

認定こども園 小百合学園

小百合幼稚園 訪問インタビュー

小百合幼稚園は一橋大学の北側の閑静な住宅が並ぶ一角にあります。昭和30年に開園しました。園舎のすぐ目の前に一橋大学があり、自然豊かな大学からは四季折々の姿を感じさせてもらえる環境です。



教育目標

- 心の成長を願う教育
- 個性・想像力・自発性を育む
- “家庭”の延長と“社会”への一歩
- 信頼し合い共に育つ関係

目標を展開する上で、少人数制をとっているということが、園の特徴でもあり、自慢でもあります。3～5歳児は特に大切な時期で、詰め込むだけではなく、集中して何かをすることができるような環境を整えています。

日々の活動のプログラムは、年間計画にそってクラス毎に策定され、朝のHRでその日のプログラムを話し展開しています。ただ、実際の保育の中では、プログラムにとらわれすぎることなく、その日、その時の出来事を大切にしたいと考えているそうです。例えば年少児が、年長児の活動を覗いてその場にとどまり、一緒に過ごすなど、他のクラスの子どもたちとの交流も積極的におこ

なっています。

そしてどの場面に居ても安心して過ごせるように職員全体で一人ひとりの子どもを共通理解し、同じまなざしで見守れるようにしていますとお話されていました。

また、イタリアの北部の都市レッジョエミリアのまちづくりの考え方に共感し、“乳幼児教育は将来の市民を育てる”ということを念頭においています。今、いる子どもたちは、将来の市民になります。その子どもたちを豊かに育てることは、市が豊かになることにつながります。子ども時代を豊かに育てるには、個々の能力を大切に伸ばしながら、健やかで平和な社会を創り出す力を育てていきたいとの考えがあります。自分の意見を持って、自己表現できることは、集団の中で生活できる力につながります。その為にも一人ひとりの「今」を受け止め豊かなあそびと友達に関わり、深めながら子どもたちの健全な育ちを支えていきたいと考えています。



教室の窓に卒園製作で子どもたちが描いた絵

←トイレには「すりっぱはならべましょう」と子どもからのメッセージ

開園した当時は、国立市のまわりでも少しずつ幼稚園ができていました。また、八王子、国分寺では幼稚園連盟会ができていたそうです。国立市でも、「幼児教育の為に力を合わせよう」と初代の園長が中心となってPTA連合会をつくりました。少子化を背景に、園児の確保等があり地域で連携していくことは難しいことです。それでも国立市の幼稚園は「国立市の幼児教育向上の為に力を合わせる」ために今もPTA連合会の活動を続けています。

現在の園長先生は二代目にあたります。

かつては、中学校の教員として、教育に携わっていました。結婚をきっかけに小百合幼稚園に入り、やればやる程楽しいと感じられ現在に至ったそうです。

園長先生は園のもうひとつの自慢として、子どもに関わる大人のことを挙げていました。園においては、職員や保護者は「子どもが出逢う大人」です。他にも卒園した子どもの保護者の方や近隣の大学生など人と人との縁やつながりを大事にして声をかけ合いお手伝いしていただき、「さゆりハローワーク」しながら、園内は素敵な大人であふれているそうです。



ホールの片隅にある、図書コーナーでインタビューに応じて頂いた川上園長先生。

途中、覗きにきた子どもたちにも、優しく語り掛けるようにお話されていました。

保護者との関わりも大事にしています。園舎の3階には、保護者の方々のお迎えがおくれてしまったときの園児の過ごす場所が設けてあります。その隣室はPTA室として、保護者の方々の活動の場になっています。また、授乳スペースとしても提供しているそうです。

園長先生は、持ちかえりの仕事もあるほど忙しい毎日を過ごされています。旅行が好きだとお話しされていましたが、海外へ行くといった大旅行は難しく、ローカル線に乗っての小旅行を楽しんでいるようです。そして、小さいころの自然豊かな国立での記憶を思い起こしながら終始、「国立のまちが好きです」と語られ、国立の未来を担う子どもたちへの愛情とともに、国立という地域に対する深い思いや考えにふれることのできた貴重なインタビューとなりました。

※幼稚園のホームページは市役所ホームページからもご覧になれます。

国立市ホームページ→子育て支援ページ→子どもを預ける→幼稚園→国立市幼稚園等一覧